

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200293		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区於呂2406-1		
自己評価作成日	令和1年11月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&jigyosyoCd=2297200293-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和1年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかに過ごせる施設であること。
 自分のやりたいことをして、生活できるように支援しています。
 家族とコミュニケーションをとり、施設だけではなく家族の一員であることが確認できるように支援します。
 今年のフェスタは、作品展。作品づくりの楽しさと達成感を味わいます。
 恒例の地域の方の軽トラ市、往診医「ユマニチュード」についての講話」もご家族・地域の方向けにさせて頂きます。ご利用者様・ご家族様・職員の三位一体となった施設であることが目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年と地域で歴史を積み、管理者は2016年12月より着任4年勤務となり、昨年7月の実地指導も「指摘事項なし」に結ばれて堅固な運営が覗え、また現在の利用者も平均介護度2.14と、穏やかな日々が送れている事業所です。開設以来毎年恒例となった『あいの街浜北フェスタ』は本年も軽トラでの野菜販売や、事業所での看取りに深い理解がある診療所医師による講話『ユマニチュード』、篠笛演奏など、地域の人々の協力を以て開催が予定されています。今年は、日頃利用者が取組んでいる作品を展示する場を設けることとし、頑張りや披露できる機会とあって作品作りにも精が出て、利用者も生活に張りや持っている様子です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1ヶ月に1回の全体研修 必要に応じてのフロア研修にて、共有してそれぞれの利用者様へのケア内容も確認している。	事業所理念『笑顔のある暮らし』は常に目にすることができるフロアに掲示、管理者からは「職員の心が豊かで笑顔があれば利用者にも反映する」と伝え、申し送りやミーティングの場で実践について振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1回行う、地域密着運営推進会議ボランティアの受け入れをしています。	『あいの街浜北フェスタ』は本年も予定され、開設以来の恒例行事は事業所の代名詞ともなっています。他にも花壇の草刈りを申し出てくださる地域住民や、飛竜太鼓を披露してくれる園児の慰問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あいの街フェスタにて、往診にきてくださる先生の「ユマニチュード」の講話を一般・ご家族向けにして頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時、ヒヤリハット・事故報告を行います。身体拘束未実施委員にもなって頂いており、意見を伺っています。	運営推進会議は併設事業所との合同で実施され、行事や事故報告をおこなっています。敬老会や公民館行事へのお誘い、「あいの街フェスタも楽しみにしているよ」との声もかかり、相互交流の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いし、参加して頂いている。	浜北区介護保険課へは運営推進会議の案内、その後の議事録も届けており、市からメール配信される研修も必ず確認、本年は口コモコ体操や口腔ケア講座で学びを進め、集団指導にも欠かさず出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しなくてもいいように、日ごろからの声掛けを注意している。	身体拘束廃止委員会は運営推進会議時に同時開催としており、医師や看護師、地区民生委員もメンバーとして、開かれた運営が叶っています。特に離設する利用者の事は、地域の皆さんの協力も必要となるため、情報共有のよい機会となっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社の内部研修への出席をし、出席したものが、その他の職員に伝える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社の内部研修への出席をし、出席したものが、その他の職員に伝え、必要な時は、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様に納得できる説明を行い、ご本人様にも納得できるように、ご家族様よりお話を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	体調の変化は、常にご家族様に伝え、コミュニケーションをとることに心掛けている。	毎月『グループだより』として写真を添え、家族に届けています。家族会は年に一度おこなわれ、半数近くの出席があります。収納スペースがないマイナス面が幸いとなり、衣替えが面会を増やすことに実っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアプランは、職員全員で話し合い統一し、ご家族様に報告し決定している。	月に一度のミーティングや申し送りで職員意見を聴取し、事故等には緊急カンファレンスを開いています。個人面談は年に2回ありますが、管理者から声をかけるようにして言いやすい雰囲気を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社訓 「働きやすい職場づくり」のもとに職員同士働きやすい環境で仕事に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課による、面接を素に、職員一人一人の成長を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、セクション会議などに参加し各店舗とも交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い、傾聴しご本人とコミュニケーションをとる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学頂き、入所されるまでの様子をお話し頂きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・ご本人様とお話し頂き、ケアマネも含め話し合いご納得頂けるサービスを提供開始に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者様、一緒に歳をとり、成長できる関係がいいと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも、施設に出入りできるように、開かれた施設・関係ができるよう声掛けします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの暮らしの基準を崩さないように、TVなど好きな時間に観られるように配慮します。	面会時間は特に決めておらず、2週間に一度程度の来訪が一般的です。月に2回は自宅に戻り、一泊する人、刺し子のフキンを作ったり、事業所の繕い物もしてくれる人は、職員に玉結びの方法まで指導してくれます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お隣の利用者様とお話しができるように、配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも、お電話など受け入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様の思いを常に、共有し人間らしくいられるように努力します。	周辺症状には、気分の抑揚を24時間シートを用いて把握、分析につなげています。また認知症の進行で食も減退気味の人には一番先に配膳したり、職員と一緒に食べたりして、意欲の回復を探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しい方の入所時、これからの生活環境を今までの方々と交わるように配慮します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・体重測定で大まかなことを把握し、常に顔色・表情を観察させていただきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当職員を配置し、日々の状況を把握し随時、申し送り必要に応じて計画変更を行っています。	本人の言葉から「地域住民が参加できるイベントを企画、地域住民としての関係を構築する」と、気持ちに寄り添った、かつ事業所の姿勢が滲むサービス内容が記載された介護計画書を視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートへの記入、カナミックでの共有で実践へ反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化は随時、ご家族に報告しご本人とも話し合い柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、お花見・紅葉狩りなど行楽行事を積極的にを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前よりのかかりつけ医を大切に、受診できない利用者様へは、往診して下さる先生と体調管理に努めています。緊急時も迅速に対応しています。	全員が其々のかかりつけ医を継続していますが、内一名の医師は看取りにも理解があり、普段相談にも応じてもらっており、心強い存在です。『あいの街フェスタ』ではユマニチュードの講話を担当して下さる予定です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化は、看護師に伝え必要な時は、ご家族様にも受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの施設での経過を報告し、入院中も病院と連絡をとり、病状など共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の医者との連携にて、今年二人の方を看取ることができました。これからも、ご家族様の意向を伺いながら終末期の支援を行います。	開設以来4名の看取りを経験しています。本年度旅立った2名の担当医は理解があり、夜勤者の不安には「何時でも電話ください」と言ってもらえ、家族希望の点滴にも通ってくださり、生活の中でお別れができ看取りの在り方を改めて学び、想いを共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の手順を話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	去年、台風時の停電を教訓として、ランタンなど備えることの大切さを思います。	法定訓練は10月に実施、もう一度は3月を予定しています。避難経路、通報訓練等を実践し、夜間想定訓練は図上訓練としています。地域の訓練参加、備蓄も備わっていますが、消防署職員の立合いはありません。	消防署職員の立合いから避難方法やAEDの使い方等、専門家のアドバイスがもらえることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初動の声掛けを考えています。「何にしているの？」ではなく「どうしたの？」とかコミュニケーションを穏やかに心掛けています。	本社での『接遇』『個人情報』研修に代表職員が出席し、内容はミーティングで共有しています。どの職員も丁寧語での声かけができていましたが、利用者の呼び方は本人本位とし、「さん」づけとは決めていません。	呼び名についてはあらかじめ本人や家族に確認を取り、同意を得ておく(日々の介護記録の中でよいので記録を起こす)ことが望ましいと思われると思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いが通るように支援しています。納得できるまで、付き合います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いのままに生活できるように、体調など無理のないように支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容。 入浴時には、必ず全ての衣類の着替え、清潔を保っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にあった形態のお食事を提供しています。お食事レクにて、楽しんで食べることができるといいです。	業者からの配達で、湯煎タイプのもを普段は提供していますが、月に一度は職員が手作りしています。生の鯖のだし汁を使う『自然薯祭り』と称したメニューは、利用者も慣れた手つきで摺り役となり賑わいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、10時・15時・入浴後に水分補給の時間を設けています。それ以外にも随時、必要に応じて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間の義歯洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で行かれる方はもちろん、声掛けにてトイレ誘導しています。	大半が自立ですが、場所が分からなかったのか、間に合わないと心配してか、トイレが頻回だった人のしぐさをキャッチ、誘導することで安心できたようで、夜間10回余起きていたのが眠れるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	先生と相談しながら、自然に排便ができるように、職員間で話し合っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否がある方の入浴を楽しんで頂けるように声掛けしています。その都度、必要な方は、シャワーだけでも入れるように心掛けています。	週2回を目安としており、今のところ「毎日入りたい」という人はいません。時節風呂では、菖蒲が手に入らずあやめで勘弁してもらおうとしたところ、利用者から「違う」と指摘を受けて、大笑いとなったこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回のシーツ交換・布団干し、季節の布団交換。個室の提供。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時の職員間での共有。配薬・服薬の確認は、複数の職員で行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品を作ることの楽しさと達成感が味わえたらいいな。との思いから作品展を開催し協力して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・紅葉狩り、昼食をレストランで外食しています。ご家族様との外出・外泊もお願いしています。	春と秋にはお花見、紅葉狩りが年間行事に位置付けられています。長距離を歩ける人が減り、散歩がおこなわれていませんが、天気の良い日にはおやつを外で食べたり、併設の小規模事業所を訪ねたりしてプチお出かけを実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金の所持はありませんが、外出時に、職員と買い物できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される場合は、お電話して頂いています。暑中見舞い・年賀状などをご家族あてに出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ、お出かけしたときの写真など展示を行い、思い出を共有しています。	リビングにはゲームレク用品が並び、A4サイズに伸ばした季節行事の写真が壁一面に飾られています。ぬり絵や折り紙作品が並び、日頃から利用者と一緒に取組む姿が目に見え、心地よい光景です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて過ごす時間が長いので、お隣合わせになる方への配慮をしています。相性など職員同士話し合い、その都度、適応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な方へは、お部屋にゆったりできるソファなどを持ち込んで頂き、お一人の時間も大切にできるように、配慮しました。	ふらつきがあるために転倒リスクを懸念して床に布団を敷いている人、ゆったり寛げるように馴染みある一人掛けソファを持ち込む人もいますが、日中はフロアで過ごす人が多く、ほとんどが就寝のための居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の力で歩くことができるように、お一人ずつ歩行器があります。		